

District 2770



イマジン

ロータリー

会長：小林 賢弘
幹事：北林 隆一

Weekly Report

2022~2023 越谷東RC運営方針

●感謝と恩返しの輪を広げよう

2022~2023 RIテーマ

●イマジン ロータリー

越谷東
ロータリークラブ

創立1987年5月18日



〈例会日〉 毎週木曜日 12:30~13:30

〈事務局〉 〒343-0813 越谷市越ヶ谷3-7-1 (NTT東日本 越谷ビル2F)

☎ 048-965-2037 ☎ 048-965-2011

<http://www.koshigayahigashi-rc.org/> E-mail:info@koshigayahigashi-rc.org

第1731回例会 2023年5月11日

司会：会場運営委員会/守屋トミー
会報No.1517号/担当：委員一同

会員数：56名/出席数：36名
出席率：72.00%

青少年奉仕月間

本日のビジターゲスト



株式会社 柳生RPlus 代表取締役 霜田 伸彦 様

入会おめでとうございます!



住友生命保険相互会社 越谷支社 支社長 川本 賢哉 様

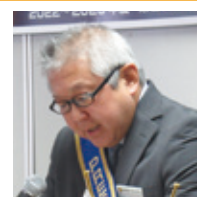
- ◆黙 禱
- ◆開会点鐘 会長 小林 賢弘
- ◆国歌斉唱 「君が代」
- ◆ロータリーソング斉唱 「我らの生業」
- ◆クラブソング斉唱 「クラブ賛歌」(1番)
- ◆四つのテスト 職業奉仕委員会 株竹 眞次
- ◆ビジターゲスト紹介 会長 小林 賢弘
- ◆結婚記念日・誕生日祝 親睦友愛委員会
- ◆会長挨拶 会長 小林 賢弘
- ◆幹事報告 幹事 北林 隆一
- ◆新会員入会式 勧誘委員会 岡崎 愛子
- ◆新入会員挨拶
住友生命保険相互会社 越谷支社 支社長 川本 賢哉 様
- ◆ビジターゲスト挨拶
株式会社 柳生RPlus 代表取締役 霜田 伸彦 様
- ◆卓話「人生を変えてくれた、ロータリーの方針の理念
(決議代23-34号)」 青木 伸翁
- ◆スマイル報告 社会奉仕委員会 鈴木 一朗
- ◆出席報告 出席委員会 栗屋 裕二
- ◆閉会点鐘 会長 小林 賢弘



会長挨拶

会長 小林 賢弘

冒頭で申し上げた通り、今年1月18日東京ロータリークラブに於いて、当クラブ青木伸翁会員が名誉ある卓話をされました。我が越谷東ロータリークラブは創立36周年・会員数56人・例会場NTT越谷ビル2階。対して東京ロータリークラブは創立102周年・会員数329人・例会場帝国ホテル中2階光の間、初代会長があのみ山梅吉さん。日本で最初のクラブであり日本を代表する財界人の集まりであるメガクラブであります。ここでのご経験を是非東クラブにフィードバックしていただき、創立記念卓話としてお願いしました。青木さん今日はよろしくお祈りします。



また、この後畔上青少年奉仕委員長からご報告いただきますが、越谷東高校インターアクト部の継続活動となり得る青少年奉仕事業が5月28日(日)に決定しました。今年度最後の事業となりますので会員の皆様の奮ってのご参加をお願いいたします。今日は時間がいくらあっても足りないくらいなので私の時間は以上とさせていただきます。

幹事報告させていただきます。

越谷東RCオリジナルポロシャツの注文は明日までとなっております。週明けには業者に注文しますのでよろしくお祈りいたします。



ポリキャップの回収を中止していましたが、越谷東高校インターアクトクラブに寄付することになりましたので、本日より回収箱を設けますのでご協力下さい。

インターアクトクラブと協力する新規奉仕事業が理事会で承認されました。この後の委員会報告で説明がありますのでよろしくお祈りいたします。

次回の例会は、5月18日(木)創立記念例会となります。以上幹事報告でした。

おめでとう

5月

誕生日



南 千加江会員 栗田晴巳会員 隅田 敏会員
 〈Zoom参加または欠席会員〉 富澤春男会員、福田悠一会員

結婚記念日

〈Zoom参加または欠席会員〉 清村忠雄会員
 鈴木裕万会員 千葉宏之会員

【奥の細道 芭蕉】(取残し)

田 一枚 植えて立ち去る 柳かな
 これが西行の立ち寄った柳かと、感慨に耽(ふけ)っていると、目の前の田では、人々が田植えに励み、自分がぼんやりと感慨に耽っている間に、いつの間にか一枚の田を植えてしまった。自分も、しばらくの物思ひから覚めて現実にもどり、柳の陰を立ち去ったことである。

(出席委員会)

スマイル報告

社会奉仕委員会 鈴木 一朗

| | |
|-----|----------|
| 今 回 | 23,000円 |
| 累 計 | 757,000円 |

次の例会の案内

第1732回 5月18日

ロータリーの友紹介

卓話:「20・30周年を振り返って」

卓 話

「人生を変えてくれた、
 ロータリーの方針の理念
 (決議代23-34号)」

久しぶりのホームクラブでの卓話で若干緊張しています。本日は「人生を変えてくれた、ロータリーの奉仕の理念」「決議第23-34号」と題してお話します。

この決議は1923年の国際大会の第34番目に提案され採択されたもので、1936年にRI会長を務めたウィル・R・メイニアとシカゴクラブのポール・ウエストバーグにより書かれました。これを書くについて二人には二つの大きな目的がありました。

- 1、ロータリーの理念、原理的な世界は様々な議論がありましたが、この国際大会の決議をもってそのすべてを解決すること。
- 2、それまで行われていた、団体的・金銭的奉仕活動をロータリーのなかで正当な奉仕の一つとして組み入れることでした。

現在のタイトルは

「社会奉仕に関する1923年の声明」このようになっていますが1923年当時のタイトルは「綱領に基づく諸活動に関するロータリーの方針」となっていました。このタイトルからも分かる通り、社会奉仕だけでなく、職業奉仕も、国際奉仕も青少年奉仕も、すべての活動について書かれているものです。決議34号は6項目からできていて、1項から5項までが総論で、ロータリーとはこういうものであるから、第6項で各論として、クラブが行う金銭的、団体的奉仕は以下の準則で行った方がいいです、と書かれています。今日は時間に限りがありますから、第1項と2項についてお話をいたします。

第2項からお話しします。

第2項にはロータリークラブのやるべき4つのことが書かれています。

第1に、ロータリアンに奉仕哲学を理解してもらうため、自己研鑽に励み、切磋琢磨し集団的に学ぼうこと。

第2に、ロータリー内部に対しても外部に対しても奉仕の理念の実施例を団体で示すこと。



青木 伸翁

第3に、個人奉仕を提唱しています。ここで言う奉仕はロータリーが言う本体的な奉仕のことです。

第4に、個人として、また団体として奉仕の実践をして、ロータリー内部だけでなく、ロータリアン以外の人たちに対しても奉仕の理念と、実践例を示し、外部の人々にも理解してもらうこと、と言っています。

我々ロータリーの奉仕の理念が書かれているのが第1項です。第1項は、ロータリーとはそもそも何かとっています。

第1項

ロータリーは、基本的には一つの人生哲学でありそれは利己的な欲求と義務これに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕-「超我の奉仕」-の哲学であり、これは「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである。

2010年になって、国際ロータリー規定審議会はこの第1項をもって奉仕の哲学と定義するとしました。

この第1項は、ロータリーとは一つの人生哲学であると明快に言っています。

前半の部分を短く言い換えると、

ロータリーは「利己と利他の調和を目的とする人生哲学」である、このように言い換えることが出来ます。人は、先ず、自分が良くなりたいたいという心がありますが一方で、誰の心にも周りにいる自分以外の他人にも良くなって欲しいという心があります。この二つの葛藤する心を調和するのがわれわれの奉仕哲学、奉仕の理念なのです。

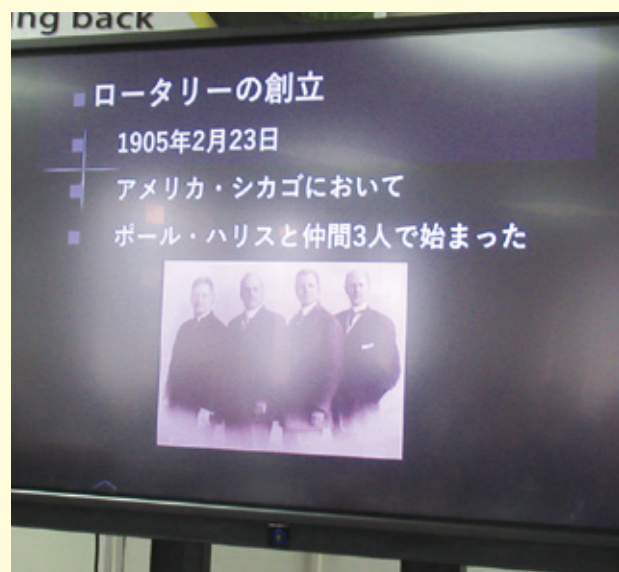
ロータリーの奉仕哲学・ロータリーの奉仕の理念 (Ideal of Service) は

「超我の奉仕」(Service Above Self) と

「最も良く奉仕する者、最も多く報いられる」(He Profits Most Who Serves Best) の二つです。

私はこの奉仕の理念に出会い、自分が救われたと思いました。この理念に出会って、人生を変えていただいたといっても決して過言ではありません。

本日は大好きなホームクラブで卓話の機会を頂きありがとうございました。



ビジターゲスト挨拶

起業、そして「Flat Location」にいたる

株式会社 柳生RPlus 代表取締役 霜田 伸彦 様



5月11日、皆様の前で話をするチャンスを頂きありがとうございます。当日、何を話したかほとんど覚えておりませんので、改めてお話をさせていただきます。

私は、生まれも育ちも埼玉県草加市でございます。趣味は残念ながら「阿波踊り」ではなく、「よさこい」です。

自身の会社を立ち上げて、若干4年ほどの若輩者です。いくつかの業界を経験し、その中でも一番長く携わった人財業界にて、人の大切さを体感しました。そんな業界にいたがために、私の息子（身体障害者手帳1級保持）の将来の仕事が気になり仕方ありません。しかしながら、現在の世の在り方では、息子の就労への機会は、相当厳しいものであると、認識せざる得ませんでした。であるならば、自分でやるしかないと思い、意を決して、福祉の経験のない私が、この業界に飛びこむことになりました。このとき、息子と交わした約束「住民税払える大人になろうぜ」でした。

しかし、起業するとは簡単ではなく、初めは、障がい者専門の職業紹介会社として、令和元年11月に営業スタート。その後、忘れもしない「新型コロナウイルス」緊急事態宣言が、数か月後にやってまいります。失意の中さまよっていると、私の知らない福祉の就労に関する仕事があることを知り、いつもの思いと勢いで「障害者就労移行支援事業」サムズアップワークスをスタートすることになりました。

私の会社理念は「人が好き 仕事が好き」です。そんな私が、当事者の親という立場から、スタートしたこの仕事。その時期と合わさるように出会った「共生」という言葉、簡単でもあり難しくもある。でも、難しく考えないでもいいんじゃないか。と思わせてくれる「ごちゃまぜの会」との出会い。ここでの仲間とのやり取りがとにかく、私を成長させてくれた。

この「ごちゃまぜの会」3年目の今、大会長と呼ばれる立場に今年なり、私の共生とは、障がいの有無や老若男女や地域、国籍関係なく楽しめる場所の提供でした。

「Flat Location」という言葉に込められた「いろんな凸ぼこを、フラットに！ふらっと、寄ってみてほしい、きっといいことあるからさ」を実現したく、多くの仲間、企業様、団体様が応援くださり、みんなが主役になれるイベントにどんどん近づき、今日に至っています。

その場限りで終わらない、継続できるLocationを提供していきたいと思います。そして、更に「人が好き 仕事が好き」になりたいと思う今日この頃です。